



設立:1999年7月



Nadene Grabham

ネイディーン・グラブハム

南アフリカ

ドア・オブ・ホープ（希望のド
ア）児童救済施設

運営理事

私たちの国

南アフリカ

人口: 5,670万人

人種: 黒人、白人、
有色（アジア/インド人）

宗教: キリスト教、
伝統的なアフリカの信仰、
イスラム教

階層: 世界で一番貧富の差が大きい



私たちの国

南アフリカ

南アフリカは
幼児遺棄率が世界で最も
高い国の一つです。



私たちの国

幼児遺棄の概況報告

- ひと月に約**300**人の子供が捨てられます。この数字は**生き残った子供**の数です。全体数はさらに多くなります。
- ヨハネスブルグでは、**3人**にふたりは**死亡後**に発見されています。
- 捨てられた子供の**65%**は新生児です。
- **90%**は1歳未満です。

私たちの国

幼児遺棄の概況報告

- 捨てられた後、発見されないままの赤ちゃんも大勢います。
- 多くは堕胎に失敗したために捨てられています。
- 南アフリカでは、遺棄は重大犯罪とみなされていません。
- 安全であっても、遺棄は違法です。つまり、私たちは法に反してベビーボックスを運営しています。

私たちの国

子供を捨てる主な理由

- 貧困
- 失業
- 家族崩壊
- HIV/AIDS
- 古い信仰
- 強姦、近親相姦
- 金銭援助してくれる交際相手
- 男性から捨てられた母親
- 堕胎を試みたが失敗した
- 不法入国者
- 中絶できる法定年齢は12歳、子供を養子縁組できる法定年齢は18歳
- 性や妊娠についての知識がない

私たちの歴史

- 「希望のドア」 1999年
- ベレア・バプテスト教会 によって設立されました。
- 危険な場所に赤ちゃんがいつも捨てられていることにシェリル・アレン修道女が気づいたことが始まりです。
- 何か別の安全な方法があれば、危険な場所に捨てることはないはずだとシェリルは考えました。

私たちの歴史

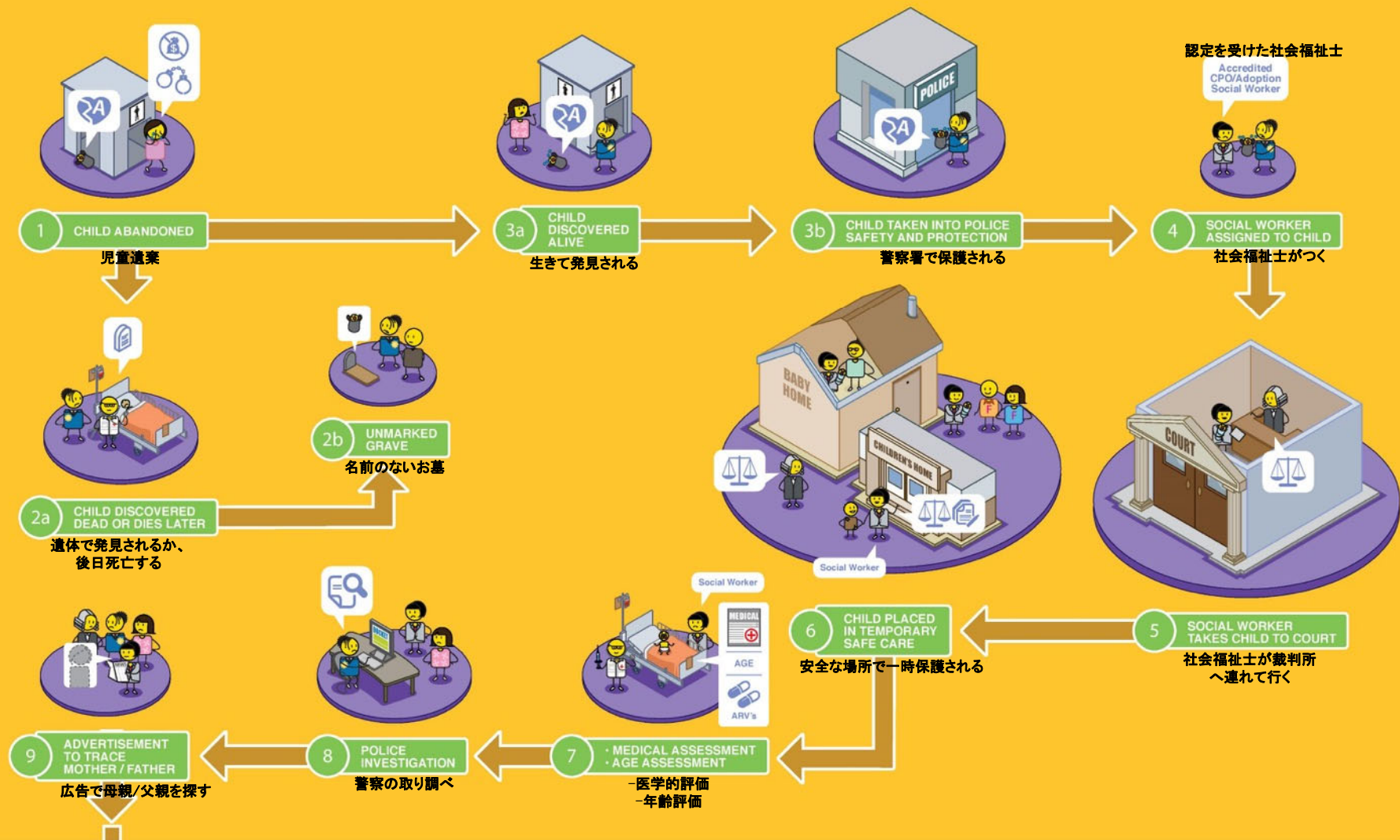
- 教会の壁に穴を開けて「ベビーボックス」を設置しました。
- 勤務中の介護士たちに電子信号の警報が伝わります。

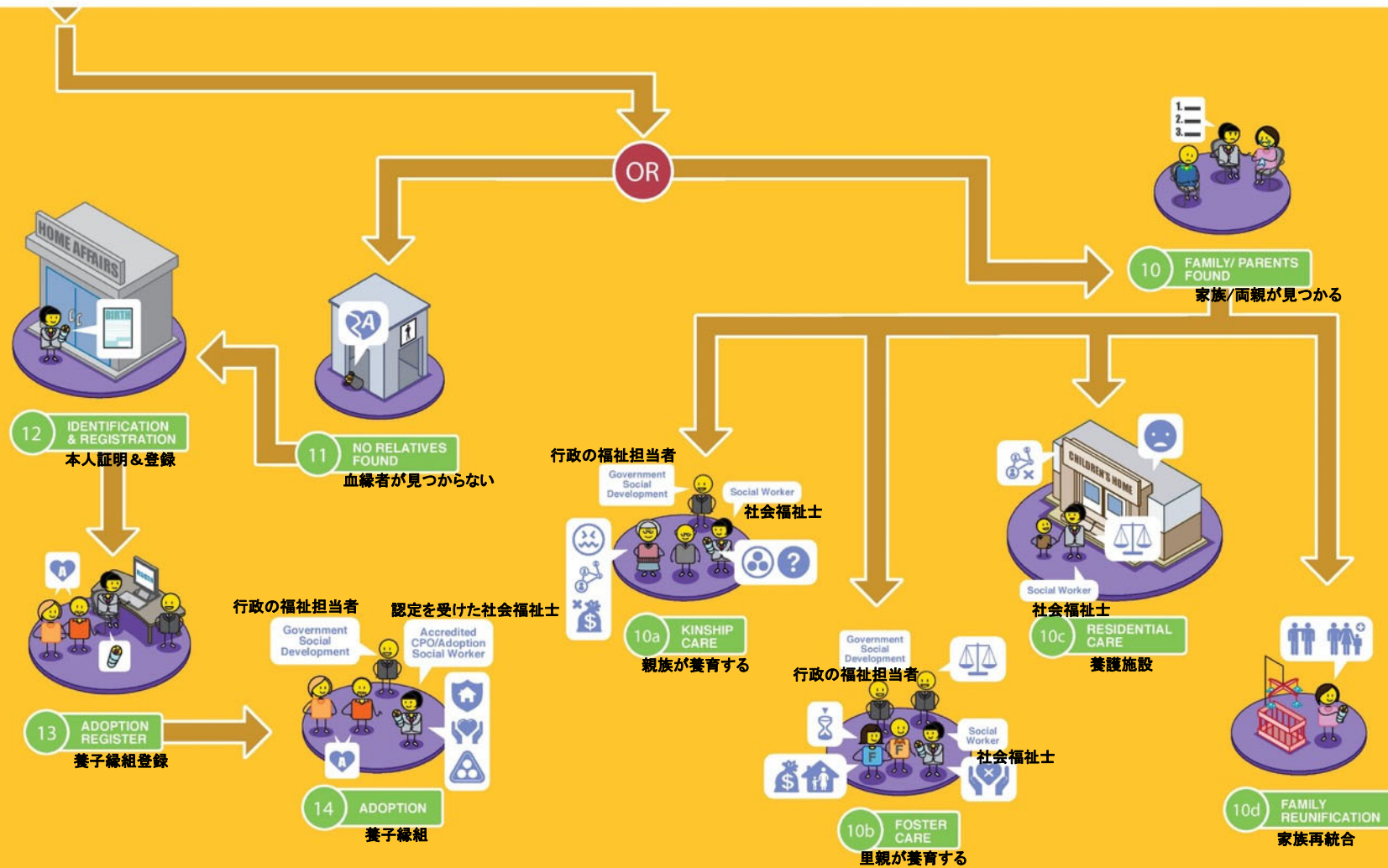
私たちの歴史

- このニュースが広がり、**母親たち**が赤ちゃんを連れてくるようになりました。
- また、
 - **警察**
 - **地域**の人
 - **病院**や**診療所**が連れてくることもあります。

Statutory Intervention: Child Abandonment

捨てられた子供への法的援助





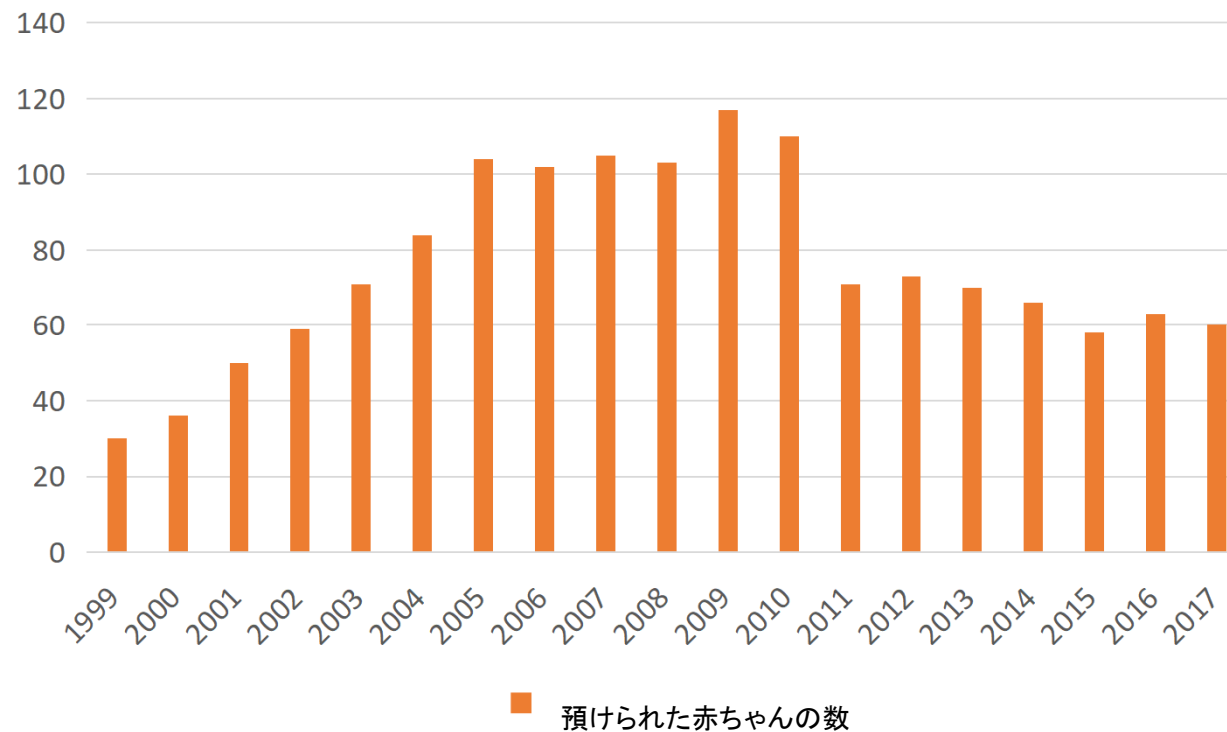
Abandoned	Legal Process	Stress	Counseling	Limited / No Bonding / Attachment	Family Reunification	ARV's	Support & Care	Biological Parents	Adoptive Parents	Adoption Social Worker	Police	Doctor
Death	Adoption	Financial Considerations	Role Confusion	Legal Document	Jat	Foster Care Grant	Stable Home	Foster Parents	Government Official	Child	Grandparents	Presiding Officer / Judge
Investigate / Report	Family Belonging	Cultural Roots	Temporary	Neglected & Rejected	Poverty	Ancestral Disconnection						



私たちの受入数

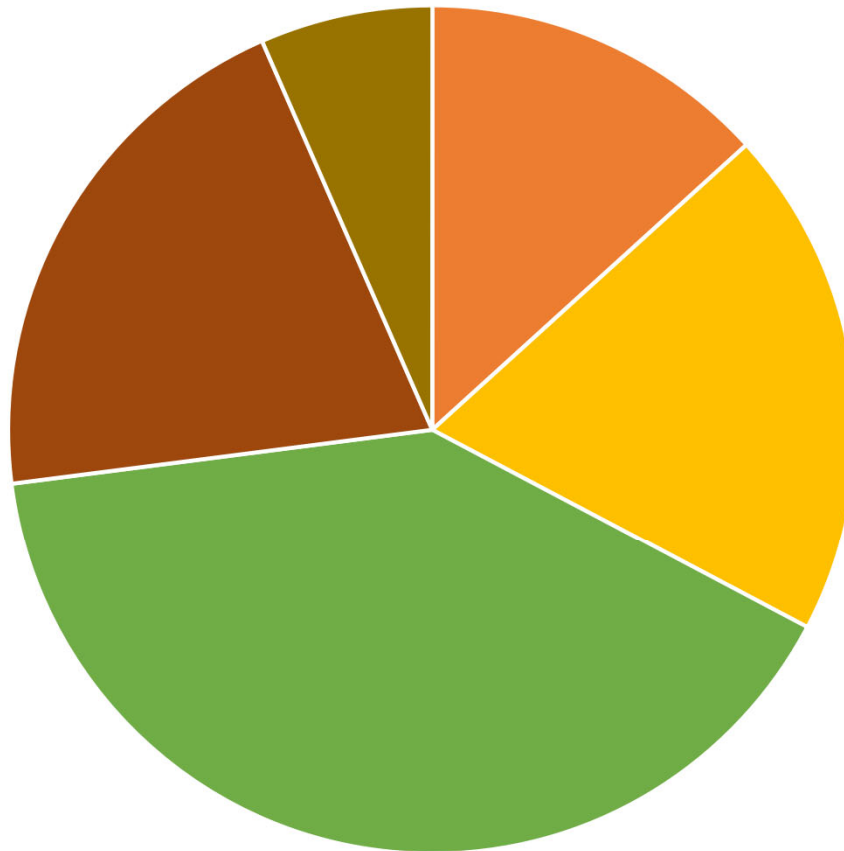
「希望のドア」には、これまで
1,600人以上の赤ちゃんが預けられました

「希望のドア」年別受け入れ数



私たちの受入数

預け入れ手段



*その他：児童保護団体、非営利団体、一般市民、教会など

ベビーボックスのある施設

- 東ケープ州
 - ヘルシー・マムズアンドベビーズ・クリニック
(2009年設立)
- クワズール・ナタール州
 - フェアヘーブン・ベビーホーム(2012年設立)
 - オープンアームズ (2016年設立)
- ハウテン州ヨハネスブルグ
 - ドア・オブ・ホープ児童救済施設 (1999) 197名
 - インパクト・アフリカ 3 ボクシーズ(2012)
4名
 - ホープ lthemba* (2012) (* 現地の言葉で「希望」)
 - オープンアームズ・オブ・ホープ (2012)
 - ライフハウス
- 西ケープ州
 - ホープ・フォー・ベビーズ (2014) 2名
 - ヘルダーバーグ・ベビーセーバー (2014)
2名

南アフリカの課題

安全であっても遺棄は違法です。
つまり、どのベビーボックスも法に反して運営されています。

安全かつ合法的に、そして母親が希望すれば匿名で赤ちゃんを手放すことができる制度が必要です。

否定派の意見

- 子供に対する父親の責任は放置される
(捨てられた子供の父親は、
大多数がその子の人生に関わりたくないと考えている)
- 赤ちゃんをベビーボックスに預けた母親は逮捕され、刑務所に入れられる恐れがある
- 子供の出自を知る権利が奪われる

肯定派の意見

- 危険な場所に捨てられてしまう子供たちの命を救うことができる
- 子供には生きる権利がある
これだけですべての反対意見を超越していることは間違いありません。
- 望まれない新生児の命を守ることができる

ベビーボックス = 命

未来への希望

残念なことに...

南アフリカの法律は「事後措置」です。

- 捨て子の問題と、母親がその結果どんな目に合うかを扱っています。

「防止策」としての法律ではありません。

- 根本的解決に役立つような法律はありません。

未来への希望

良い知らせもあります。

- ベビーボックスの設置が法律で認められるよう、多くの活動家が子供の権利のために頑張っています。
- 「匿名出産法」の作成に向けて取り組んでいる弁護士も大勢います。

ベビーボックスが合法化され、「安全な避難場所の提供と匿名での出産」法が実施されれば、

女性たちは中絶することも赤ちゃんを殺すこともなく、別の選択肢を選ぶことになります。

生きる権利は、出自を知る権利よりはるかに重い。

「赤ちゃんが、指定された扶養者のところへ安全に連れて行かれるのなら—そこに家族がいなくても、そこで医療が受けられなくても—そのほうがいい。

その赤ちゃんがゴミ箱に捨てられている姿を見るよりも。」



成功例

- 当施設の最初の赤ちゃんがジョージーナでした。
 - 1999年8月に預けられました。
-
- ひどい栄養失調で、私たちは脳障害があるのではないかと疑いました。
 - ジョージーナは養子縁組でアメリカへ渡りました。

成功例

- 学業成績は優秀でした。
- 音楽が大好きです。
- 現在ノースカロライナ州で生活し、音楽（クラシックとジャズ）を勉強しています。
- ジョージーナは**2016**年に南アフリカを訪れ、私たちが運営する「ベビーハウス」でボランティアをしてくれました。

成功例

「希望のドア」は
どの子も大切な存在であると考えています。

今後、できる限り多くの子供
を救っていきたいと思います。

ジョージーナのような子供たち
を。

希望

ベビーボックスで
救済した赤ちゃんの人数

年	人数
1999	8
2000	10
2001	14
2002	8
2003	5
2004	5
2005	5
2006	17
2007	8
2008	14
2009	15
2010	13
2011	8
2012	8
2014	11
2015	10
2016	13
2017	12
2018	4

南アフリカでは希望のないまま産まれた子供が多くいます。この世界はこの子供達には暗くて絶望に満ちたところかもしれません。私達はこの子供達に希望をもたらしませう。Door of Hopeには、希望があります。